

第四章 学問はなぜ思想を失ったか

1 「リベラリズムの破綻」と「保守主義の困難」

今日の日本では「思想」は力を失っている。

- ポストモダン…もともと「思想」というほどのものはない。
- リベラリズム…今日の「思想」。個人の自由を至上価値とする。人それぞれの欲望・理想・信条をさまざまな制約から解放して実現しようとする。
科学と結びつく。科学は事実と価値判断の分離。近代主義、近代的主体。
……社会的な価値を想定しない代わりに、価値は、それぞれの個人が判断する。こうして、ともかくも何らかの価値を信奉してそれを信念を持ってじつげんしようとする個人というものはある。…… (p. 149)
- リベラリズムは個人の価値判断をしないというが、個人の自由ともっとも重要な価値とする価値判断を行っている。
- もとは宗教対立よりうまれた。西欧的なもの。先進国においては「互いにちょっと遠慮・無視」すれば消費社会・市場経済のなかにうまくおさまる。

テロによる矛盾の顕在化 リベラル対宗教原理主義

- 「積極的自由」と「消極的」自由 (バーリン) p. 156
- テロを抑えるためには、社会の管理の色合いがよくなる。リベラリズムから原理主義が生まれる。

自由や民主主義は信仰や習俗の中でも成りたつ

- 日西欧世界にもリベラリズムの適応は可能。しかし、きわめて弱い形式的な条件として程度。しばしば、自由に生きること自体が価値とされる。
- それぞれのもつ社会の「超越的なもの」。
- ある社会が保持してきた価値にたいして自分を投げ出す「義」。

相対主義ではなく、かくされた絶対主義を前提にした保守

- 神という絶対的なものを想定しているからこそ、人間は平等になれる。
- ある程度計算のたつかこの習慣に身を委ねよう。
- 今の国際情勢での実現は困難に思われ

2 「理想」も「虚構」もなくなった現代日本。

現代日本で保守主義は実現できるか

昭和30年代～40年代が描かれる。『ALWAYS 三丁目の夕日』『菊二郎とさき』

- 物質的な生活の利便性や豊かさと精神的なものの充実感が同調していた。テレビ
- そういう時代にた対してのノスタルジー。

五〇年代以降

……1980年代（1980年＝昭和55年）になるともっと印象は薄くなり、ともかくも、バブルになって、出版文化さえもがバブリーにポスト・モダン的な物を消費するようになる。われわれの着ているものも、コム・デ・ギャルソンがどうのこうのという話が身近からでてくる。「大衆」の時代が終わって、「分衆」の時代になる、なんていう話がでてきたりします。……

- なにかフワフワした状況のなかで、いろいろなものが拡散しているという印象。

大澤真幸の戦後日本論について

- 1970年代まで…「理想の時代」
- 1970年代から…「虚構の時代」
- 戦後、ともかくも、民主主義や平和主義といった理想を掲げ、理想に近づく運動をしていた。やがて挫折。
- 「理想」も一種の「虚構」である。いま・ここには存在しない。また、おれゆえに、その時点から現実を捉え、それを批判することができる。

……「理想を信じる」ということは、ここにある現実よりも、ここには存在しない虚構の方に強いリアリティを感じる、ということ…

- 「虚構の時代」においては、理想がある程度現実化し理想でなくなる。理想が理想としての力を失う。＝絶対的な基準点の喪失。→現実のリアリティが失われてゆく。
- 「理想の時代」においては、現実をひとつの観念のものにとらえる事ができた。
- それができなくなり、現実がリアリティを失う。現実そのものが虚構じみってくる。

……生活が実感を離れてしまい、自分のいまいる現実を批判的に眺めることも難しくなつてゆく。そういう意味でいえば、「理想の時代から虚構の時代へ」という言い方もちょっと修正しておいた方がいいのかもしれない。「理想の時代」の方が、虚構が虚構としてリアリティを持ち得た時代で、「虚構の時代」の方が、むしろ、真の意味での虚構のもつ力がエネルギーを失い、虚構が現実のなかに編入されてしまい、現実が虚構になってしまう。日常の生活感覚が、強い現実感をもたずに、どこか虚構じみってくる。……

グローバル経済

- グローバル経済 世界的スタンダードの出現「パリ発ファッション」などが瞬間的に東京や香港にも移される。
……グローバル化は、われわれの意識を、どこまでが本当の現実か、どこからが想像上のものなのか、その線引きをほとんど無化してゆくでしょう。…ヴァーチャリティが現実の中に入り、現実がヴァーチャリティなものへと希薄化していく……

論点

- 1 リアルとヴァーチャル、それぞれの概念が曖昧に感じられる世の中。何をもってリアルとし、ヴァーチャルとするかは人によっても、その時々・場所によっても違う。靈感のある人。
- 2 また、リアルとヴァーチャルの中間的位置にある世界で人が時間を消費するようになる。ネット書き込み、ネットゲ、Mixi、facebook、Secondlife…など。Skype 便利なんですけど。ネット解約され、切れて家族を刺殺した事件。

九〇年代 ヴァーチャルなものから現実がうまれる

- ①地下鉄サリン事件。「ポア」。カルトから現実が産まれる。
 - ②酒鬼薔薇事件。怪奇小説の現実化。
 - ③阪神大震災。平穏な生活が虚構だったことを痛感させた。
- 原因は「ニヒリズム」。絶望感。否定的な私たちでしか自己を表現することができない。無力感。
 - リアリティの問題。

第五章 「保守主義」から読み解く現代

1 保守主義と日本人

保守というスタンス

- 身近なものを大事にしていこうということ。
- 家族の会話、友人・仲間を大切に。義理を忘れない。近隣関係・日常の人間関係やつきあい方を重視する。
……家族と会話を続けるなどというのは、本当はなかなかできることではありません。そ

れよりは、口先だけで、世界平和や人類の正義や普遍性などとなえているほうがはるかに気楽なことです。友人や仲間とよい関係を保つというのも大変難しいです。おれよりも深刻な顔をして「私とはなにか」などと考え込んでいるほうがはるかに楽です。……

丸山圭三郎の人間観

- 「人間は病める動物である」
- 「理性」によって考え、計画を立てる。余計なもの。
……人間が、日常生活のなかでなんとか精神のバランスをとろうとすれば、安心して身をゆだねることのできるなにかが必要になるでしょう。……

「宗教的なもの」

- 安心作用。信頼できる人や仲間の仕組み
- 一つの儀礼としての宗教。慣習が繰り返されることでの安心感。
- ブランド商品偏愛。パソコン。ケイタイ依存

伝統破壊という風潮に対する反動で保守主義ができた。

人間の理性を万能としない保守主義

……人間の理性では捉えきれないもののなかにこそ知恵があて、社会のなかに非合理的なものを残しておいて、社会がうまく回転する面があるだろうという。それが保守主義だと思います。理性で割り切れるものではなく、無駄なもの、非合理的なものの効用を認め、そのなかから知恵を汲み取ろうとする。……

- 本居宣長によれば、人間が学問をし、知恵を身につけ、合理的になればなるほど墮落している、という歴史観が暗示される。

2 現代を読む—「歴史観」の問題

過度に西欧近代的・戦後アメリカ的歴史観にのまれている。

- イスラム社会に対しても、知的努力を欠き、アメリカ経由でみてきた。
- ヘーゲルの進歩主義観。自由・民主主義という西洋が生み出した「崇高な」理念への敵対者との戦い。

……日本の戦争観、歴史観では、少なくとも日本国内の戦いについていえば、勝った側も負けた側もどちらも言い分があって、負けた側もそれなりの義を通して戦う。そのことによって日本に貢献した、と考える。……

神道的宗教心

p. 253

参考：小倉紀蔵『歴史認識を乗り越える』講談社学術新書

終章 学問の故郷

実力社会・成果主義は「フリーター」「ニート」を生み出す。

- 末路としての「ホリエモン」「ムイチモン」
…全てが「金」に換算される経済、ともかくも「金」だけが決定的な評価基準となる社会になってしまったわけです。「マモニズム（金銭崇拜）」の社会です。大変せちがらい社会であり、もっと恐ろしいことには、「金」をもっていないものは敗者だという認識が公然と広がってしまったことです…
→反動もありそう。
- 本来日本は弱者にやさしい、個人的ではない。
- 人間にも組織にも「気」とうものがある。日本の精神を保守し、グローバリズムと距離をとる。

p. 273 より再び学問論へ。

読みましょう

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』
鬼澤忍訳、2010 年